

第1回 看護学科オーストラリア短期留学

オーストラリアのメルボルンにあるディーキン大学にて、平成30年8月14日より2か月間に渡る「短期留学プログラム」を実施しました。これは、グローバル時代のニーズに対応できる国際性を身につけた看護師の養成を目的に、岐阜大学医学部看護学科が独自に開発した留学制度であり、5週間の英語集中レッスンののち、ディーキン大学提携のエプワース病院にて2週間の実習に参加するという「看護学生のための留学プログラム」です。

今回のプログラムに参加した学生は、ディーキン大学看護学部の子生と1対1のペアを組んで、エプワース病院の教育専門看護師とともに、実際に数名の患者さんを担当し、日本の医療施設とは異なる看護実習を体験しました。他にも、Grand Rounds（症例検討会）や Hand-over（引き継ぎ）への参加など、通常の留学では得られない体験や、現地の看護師や看護学生との交流を通して、英語の習得のみならず、将来的にグローバルな視点で看護を実践する能力を養うために貴重な経験を積むことができました。



ディーキン大学（世界の大学ランキングで上位2%に入る州立大学）



実習を行うエプワース病院

参加者のアンケートより

- この留学中に英語の力は確実に伸びたが、それだけではなく、様々な国の価値観の素晴らしさや、日本の良さにも気づくことができた。これは、今後の私の人生観にも大きく影響を与えている。日本で看護師として経験を積んだのち、必ずまたオーストラリアに戻ってきて英語や看護の勉強もしたい。この留学に来られて本当に良かったと心から思う。
- 自分に自信がつき、積極性を持てるようになった。以前は、自分が積極的に行動することに対して他人から批判されることが怖かったが、実際はむしろ積極的になることで周りが自分を認識して存在を認めてくれることが分かり、自分の行動に自信が持てるようになった。同時に、自分の行動に責任を持つ意識が強くなった。
- 最初は、他の留学生のスピーキング能力の高さに驚いたが、自分の苦手を克服できる4つの自主学習ルーム（本やボードゲーム、映画やビデオなどの視聴覚教材がレベル別に完備されている部屋）で、放課後、クラスメイトとともにビンゴやカードゲームをしながら、楽しくスピーキングの力を伸ばすことができた。
- ホームステイではホストファミリーとたくさん話ができ、文化の違いを実感することができた。夕食のときは、一緒に準備や後片付けも行っているため、本当の家族のように楽しく生活できた。食事とても美味しく、フォーやインドカレー、餃子など色んな国の食事が出てきて、家に帰るのもとても楽しみだった。
- 病院実習は、専門用語が多いネイティブの英語を聞き取るのに苦労したが、2週目に入ると分かる単語が増えた。教育係の看護師さんやディーキン大学の学生が優しく、多くの人ののおかげで楽しく学ぶことができた。
- 病院実習では、英語力だけでなく、看護学生として瞬時に対応したり判断したりする力を求められることも多かった。非常に勉強になっただけでなく、人としても成長できたと思う。
- 今回の留学にチャレンジしたことで多くの新しいことを学ぶことができたため、これからはたくさんのことにチャレンジして、狭い考え方をすることなく、いろいろな角度からものを見て考えるようになりたいと思った。
- 今後も英語力を伸ばして、多くの患者に対応できるようにしたい。また、今回の留学で文化の違いを多く実感したので、外国人と関わるときに柔軟に考える力が養われたと思う。看護師として様々な人々と関わる上で、固定観念を持たず、どんな患者にもそれぞれに合った看護を提供できるように仕事に活かしていきたい。